

日本史

1

解答

問1. エ 問2. イ 問3. ア 問4. イ 問5. エ
問6. ウ 問7. エ 問8. エ 問9. オ 問10. ア

解説

《原始・古代の政治・文化》

問1. エ. 不適。ひすいや黒曜石を用いて交易が始まったのは縄文時代。

問2. イ. 正文。「魏志」倭人伝に「租賦を収むに邸閣有り。国々に市有り。有無を交易し」とある。邸閣とは倉庫のこと。

ア. 誤文。「魏志」倭人伝に「男子は大小と無く、皆黥面文身す」とある。顔や体にいれずみをしたのは男子だけである。

ウ. 誤文。「楽浪郡」ではなく、帯方郡が正しい。

エ. 誤文。「狗奴国の」を除けば正文になる。卑弥呼の時代、邪馬台国は狗奴国と対立していた。

問3. イ. 円筒埴輪の出現 (3世紀) →ウ. 七支刀の献上 (4世紀) →ア. 須恵器生産の開始 (5世紀) →オ. 磐井の乱の発生 (6世紀) →エ. 八角埴の出現 (7世紀) となる。

問4. ア. 誤文。倭の五王は中国の南朝に朝貢した。北魏は北朝なので該当しない。

ウ. 誤文。墳丘全長 360m の造山古墳は岡山県に所在するので、「すべて近畿地方に分布する」は誤り。

エ. 誤文。「仁徳天皇」ではなく、雄略天皇が正しい。

問7. ア. 誤文。庚午年籍は現存しない。

イ. 誤文。庚寅年籍は 690 年、持統天皇のときに作成された。

ウ. 誤文。戸籍は班田収授のための基本台帳。調・庸徴収のための基本台帳は計帳である。また、戸籍を司ったのは「治部省」ではなく民部省である。

問8. ア. 誤文。国司の任期ははじめ6年、のち4年となる。四等官は守・介・掾・目と表記した。

イ. 誤文。「平城宮」ではなく、藤原宮が正しい。また、「養老令」ではなく、大宝令が正しい。

ウ. 誤文。「国府」ではなく、郡衙（郡家）が正しい。

問10. イ. 不適。初の荘園整理令は902年、醍醐天皇のときに発布された。

ウ. 誤文。桓武天皇のときに廃止されたのは、正丁3～4人に1人が兵士として配属された軍団である。

エ. 誤文。鎮守府の創設は奈良時代のことである。聖武天皇のときに多賀城に設けられ、平安時代に入って、桓武天皇のときには鎮守府が胆沢城に移された。

2

解答

問1. ウ 問2. ア 問3. イ 問4. ウ 問5. エ
問6. エ 問7. オ 問8. ア 問9. ウ 問10. オ

解説

《中世～近世初期の日中・日朝関係》

問3. イ. 適切。『興禅護国論』がヒント。12世紀後半に南宋に渡ったのは栄西である。

ア・ウ・エ. 不適。アは忍性、ウは親鸞、エは日蓮の説明。

問4. ア. 誤文。フビライが日本に朝貢を強要するようになったのは、「南宋を滅ぼした」後ではなく、高麗を服属させた後である。

イ. 誤文。「大宰府」ではなく、博多が正しい。

エ. 誤文。異国警固番役は1274年の文永の役以前から課されていた。

問5. ア. 誤文。「興福寺」ではなく、東大寺が正しい。

イ. 誤文。「備前の常滑焼」ではなく、尾張の瀬戸焼が正しい。常滑焼は尾張で作られた陶器。また、釉薬を使用していたのは尾張の瀬戸焼である。

ウ. 誤文。「永楽通宝」が誤り。永楽通宝は宋銭ではなく、明銭である。

問6. ア. 誤文。肥富は「堺商人」ではなく、博多商人である。

イ. 誤文。国交を開くにあたって、足利義満は明の暦である大統暦を与えられたので、「暦を交換する儀式が行われた」は誤り。

ウ. 誤文。滞在費や運搬費はすべて明側が負担したので、日本側の利益は大きかった。

問7. オ. 適切。足利義持は朝貢形式を屈辱的として1411年に貿易を中断したが、1432年に6代将軍足利義教によって再開された。

問8. イ. 誤文。「博多」ではなく、対馬が正しい。

ウ. 誤文。癸亥約条は1443年に締結された。日朝貿易は14世紀末に開始されている。

エ. 誤文。『倭寇図巻』は明朝末期の作品で、後期倭寇の様子が描かれている。

3

解答

問1. イ 問2. エ 問3. ウ 問4. ア 問5. エ

問6. イ 問7. ア 問8. ウ 問9. イ 問10. エ

解説

《江戸時代の学問・思想》

問1. ア. 不適。『ハルマ和解』は稲村三伯が著した蘭日対訳辞書。

ウ. 不適。『采覧異言』は新井白石の著作で、7代将軍徳川家継に献上された。

エ. 不適。『華夷通商考』は西川如見の著作。

問4. イ. 誤文。「英訳」は誤りで、蘭訳が正しい。

ウ. 誤文。原書はドイツ人医師クルムスの『解剖図譜』である。

エ. 扉絵を描いたのは、平賀源内に洋風画を学んだ秋田藩士の小田野直武である。

問5. ア. 誤文。「唐津」は誤りで、長崎郊外の鳴滝村が正しい。

イ. 誤文。『蘭学階梯』は大槻玄沢の著書。シーボルトは『日本』などを著した。

ウ. 誤文。鳴滝塾の診療所で治療にあたったのはシーボルトである。

問6. ア. 誤文。「長崎の出島」ではなく、大坂が正しい。

ウ. 誤文。山県有朋は松下村塾の出身である。

エ. 誤文。「蛮書調所」ではなく、医学所が正しい。なお、蕃書調所は1857年に開校した洋学研究教育機関で、緒方洪庵が江戸に出た1862年に洋書調所と改称されている。

問7. イ. 誤文。天文方は「医学」ではなく、編暦・測量・地誌編纂などをつかさどった。

ウ. 誤文。「朝廷」ではなく、幕府が正しい。

エ. 誤文。渋川春海は儒者ではない。

問8. ア. 不適。シーボルト事件で投獄され、獄死したのは高橋景保である。

イ. 不適。『暦象新書』を訳述したのは志筑忠雄。

エ. 誤文。高橋景保は、天文学者の間重富や長崎通詞の馬場貞由と協力して『新訂万国全図』を作成した。中井竹山は儒者で、大坂の懐徳堂の学主となった人物である。

問9. ア. 誤文。蛮書和解御用では「測量器具の製作」ではなく、蘭書の翻訳が行われた。

ウ. 誤文。「志筑忠雄」ではなく、高橋景保が正しい。

エ. 誤文。軍事科学の導入に重点を置き、主に旗本の子弟が入学したのは1857年に開校した蕃書調所である。

問10. ア. 誤文。「大塩平八郎」ではなく、高野長英や渡辺崋山らが処罰された。大塩平八郎は1837年、大塩の乱が鎮圧された後に自害している。

イ・ウ. 誤文。渡辺崋山は『慎機論』、高野長英は『戊戌夢物語』で幕政を批判した。

4 — **解答** — **問1.** エ **問2.** エ **問3.** ウ **問4.** エ
問5. ア・オ **問6.** ウ **問7.** ア **問8.** ウ

問9. オ **問10.** ウ

解説

《近代の政治・経済》

問1. ア. 誤文。西郷隆盛は「地租の増徴により農民が不満を高めるなか」ではなく、地租の軽減により農民の不満が緩和するなかで蜂起した。

イ. 誤文。西郷隆盛は1873年の征韓論争に敗れて参議の職を辞した。1874年の台湾出兵に反対して下野したのは木戸孝允である。

ウ. 誤文。西郷隆盛が政府内にいたのは1871～73年。横浜正金銀行が設立されたのは1880年である。

問2. エ. 誤文。史料の出典は『公爵松方正義伝』。下線部(62)は1880年代前半に行われた松方財政に関する内容である。日本銀行条例により1882年に日本銀行が設立された。国立銀行条例は1872年に制定されたので、時期が合わない。

問3. 下線部(63)の「金貨本位制」が確立したのは、1897年の貨幣法制定によってである。

ア. 誤文。「銀本位制」ではなく、金本位制が正しい。

イ. 誤文。金本位制が停止されたのは1917年、第一次世界大戦中である。

エ. 誤文。「円・銭・厘」の単位は1871年の新貨条例によって定められた。

問5. イ. 誤文。リード文6・7行目に「公を支持したるは、畏れながら上に聖明の明治天皇あり」とあるので、「明治天皇の反対を押し切って」は誤り。

ウ. 誤文。リード文6行目に「公は前途の光明を望んで、断乎として動かず」とあるので、「大きく動揺した」は誤り。

エ. 誤文。リード文9・10行目に「殆ど天下の有力なる実業家、若しくは朝野の財政上の権威者と称せらるゝ巨頭を挙げてこれに反対した」とあるので、「賛同を得て」は誤り。

問6. ア・イ. 誤文。財界からは為替相場の安定化と貿易振興を図るために、金解禁を望む声が高まっていた。

エ. 誤文。「カルテル結成を禁じた」のではなく、カルテル結成を容認した。政府は1931年に重要産業統制法を制定している。

問7. イ. 誤文。時局匡救事業は1932年に始まった。

ウ. 誤文。地方改良運動は日露戦争後に行われた官製運動。荒廃した地方社会の改良・地方自治体の財政再建をめざした。

エ. 誤文。農業基本法が成立したのは1961年。小作争議対策としては、1924年に小作調停法が成立した。

問8. ア. 誤文。リード文7行目の「現内閣」は浜口雄幸内閣を指す。治安維持法は1928年の田中義一内閣のときに改正された。また、「軍人・右翼」ではなく、共産主義者の政治活動が活性化した。

イ. 誤文。浜口雄幸を狙撃したのは「左翼青年」ではなく、右翼青年である。

エ. 誤文。浜口雄幸内閣が1931年に帝国議会に提出した労働組合法案は成立しなかった。労働組合法が成立したのは1945年。

問9. 下線部(66)以下の内容から、立憲民政党の浜口雄幸内閣の政策を批判していることを読み取れば、当時野党だった立憲政友会の総裁犬養毅の演説文であることがわかる。